

風が揺蕩う 素朴に語らう
ふるさと 瓦版 18

2024.07.01

上新城で暮らす人々

自由な発想で「花遊び」を楽しんでもらいたい（秋田市上新城五十丁）

花工房Field Canvas 石井南さん・星華さん



石井南さん(写真右)と星華さん(写真左)親子

花工房field Canvas(以下、花工房)は、自家栽培の花材(ドライフラワーなど)を使ったクラフト制作やワークシヨップ、花ままごとの3つを軸に運営している「体験型」のガーデン。三百六十坪ほど(約二〇〇m²)の敷地には、花壇や散歩道が整備され、かわいらしいアトリエや小屋が点在する。入場は時間制(有料)で、とくに季節の花を使い、用意された食器などを借りて楽しむことができる「花ままごと」は親子連れに人気だ。

このガーデンを運営しているのが、石井さん親子。石井さんのご実家（トーベファーム）では、花壇用の苗を中心とした花卉栽培業を営んでいる。花工房では、そこで生産された苗を中心に、加工から販売までを手掛けており、いわゆる「6次産業化」に親子四代で取り組んでいる形だ。

ふだん、星華さんはトーベファームの方で苗の栽培に勤しみ、南さんはデータ分析などを行う仕事と並行して、



上:通称「山の上の花屋」トーベファームにて 下:さとびあでの講座風景



花工房でのワーク
シヨップや講師業の
ほか、土づくり等も
担当しており、ダブル
ワークに忙しい日々を
送っている。

からの依頼も年々増えており、大館、横手をはじめとした出張ワークショップで、年末まで予定がびっしりだという。



アトリエでは、カナルで可憐な花材を使ったボタニカルフレームなど多様なアレンジメントが体験でき、ハンドメイド好きにはたまらない雰囲気だ。個人だけでなく、企業や各種団体

南さんによると「好みのものが完成したときのお客様の反応はもちろんうれしいですが、たとえばワークシヨップのご依頼を受けた際に、お客様のご予算とご要望、クオリティがカチツとはまったときは喜びですね。種から育てて収穫、染色まで一貫して自分たちがやっているので、料金面も含め



ドライフラワーで人気のラグラスも、自分たちで染色・加工している



お花でお料理、盛り付けて「どうぞ、めしあがれ」

さまざまなリクエストに、柔軟に対応できることが最大の強みです」。

もともと「お花摘み」の発案者は、南さんの母親である石井厚子さん。「土や花で、お子さんがおままごとできる場所があったら喜ばれるんじゃない?」。アイデアを聞いた南さんも「花はつねに

身近にあり、摘んじやダメと言われることもなく育ちました。今は野原も減って、自由に摘んでいい花もなかなか見かけないかも」と同意。

持ち前の行動力とバイタリティーで、描くプランに適した場所を探し、平成30年上新城五十丁に土地を購入。令和2年には稼働に向けてのクラウドファンディングにも挑戦。構想から始動の時期が、ちょうど新型コロナウイルス感染症の最流行期にあたってしまったこともあり、オープンは今和3年秋になった。当初は感染対策のために、ブース設置のうえ入場制限、予約制で営業を行っていたそうだが、ほぼそのまま、現在の「ゆつくり楽しめる」スタイルとして定着している。

苦勞話といえ、令和5年7月の豪雨の際には、敷地一面が

水に浸かり「海」のような状態に見舞われたそうだった。

もとが湿地帯のため、対策として建物の基礎を高めに設定していたことが幸いし、アトリエはぎりぎり浸水を免れたそうだが、水が抜けるにも二日ほどかかり、流れついたごみの処理には手を焼いたという。

「野外なので、お客さんの動きもお天氣に左右されますし、こればかりはよめなくて……」と困ることもあるものの、「これやったらおもしろそう」と、アイデア自体はどんどん湧いてきてとまらないそう。これから訪れる、日差しのがやましい季節には、お客さんの熱中症対策も欠かせない。しかし逆転の発想で、ガーデン内に日よけ代わりとなるカラフルな大判の布をいくつも張りめぐらせ、訪れることが楽しいスポットとなるよう計画しているという。「インスタ映え」も叶う良案となりそう。

そんな石井さんたちが大切にしていることは「何事も型にはめないこと」だという。「講座やワークショップでは、自分の手と頭を動かして、自由に何かをつくってほしいなと思っています。いちおうのキットは準備しますが、その中にあるものだけで間に合わせる必要もなくて。個性や好みを大事にしてほしいです。好きなものを選んでいいよと言っても、最近は『自分で選べない』というお子さんも見かけるようになりました。ルールや制限を気にせず、にやらせてあげたいですね」。

風や花の香りといった「自然の感触」が、花ままごとで遊んだお子さんの小さい頃の記憶として残ったらいいなと話す南さん。ちなみに、花ままごとは親子連れだけでなく、大人だけでも利用ＯＫとのこと。童心がくすぐられそうなガーデンを「キャンパス」に、自由な発想で遊ぶもよし、心ゆくまで花を摘み、夢のような世界観を満喫するのもいいだろう。たとえ一輪でも、花のあるワンシーンは、生活に彩りと潤いを添えてくれること間違いなし。



トイレと、泥だらけになった際の着替えスペースを兼ねた小屋も完備